

病防第103号
平成24年1月6日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

トマト黄化葉巻ウイルス新系統の発生確認と防除対策（技術情報第13号）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、防除指導の参考としてご活用下さい。

記

県内トマト栽培ほ場で、トマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）マイルド系統によるトマト黄化葉巻病の発生が初めて確認されました。本病の今後の発生に注意し、防除対策を徹底しましょう。

1 発生確認の経過

平成23年11月に熊本県内のトマト黄化葉巻病抵抗性品種栽培ほ場において、黄化葉巻病の症状を呈する株が確認された（図1）。発病株を採取し、熊本県農業研究センター生産環境研究所および（独）九州沖縄農業研究センターで遺伝子診断を実施したところTYLCVマイルド系統が検出された。

2 国内の発生状況

トマト黄化葉巻病をおこすTYLCVには、イスラエル系統とマイルド系統がある。これまで九州地域では、イスラエル系統のみが確認されていた。今回検出されたマイルド系統は、中部・東海・関東地域を中心に発生しており、九州地域では初確認である。

3 TYLCVマイルド系統の特徴について

- 1) TYLCVマイルド系統とイスラエル系統の被害および症状に差は無く、識別は、遺伝子診断で行う。
- 2) 種苗メーカーが発売している抵抗性品種のうち、抵抗性遺伝子としてTy-2を有する品種はイスラエル系統に有効であるが、マイルド系統に対する効果が低い。
- 3) Ty-2抵抗性品種に黄化葉巻病が発生した場合、高温期を除きマイルド系統の可能性が高い。

4 防除対策

本系統は、イスラエル系統と同様にタバココナジラミにより媒介される。従来トマト黄化葉巻病対策を徹底し、感染の拡大を防止する。

- 1) 媒介昆虫であるタバココナジラミの施設内への侵入防止を徹底するとともに、施設内に侵入した個体は薬剤で防除する。特に、育苗期間から生育初期の感染は大きな被害につながるため、この時期の対策を重視する。
- 2) 施設の開口部（サイド、換気部など）は、必ず目合い0.4mm以下の防虫ネットで被覆し害虫の侵入抑制を図る。ただし、防虫ネット被覆時には施設内が高温になるので注意する。
- 3) 苗を購入する場合は、マイルド系統が中心に発生している中部・東海・関東地域からの購入はさげ、九州地域内から購入する。
- 4) 育苗～生育初期のタバココナジラミの防除に努め、定植前に必ず粒剤処理を行い、初

期の感染防止を徹底する。

- 5) 黄色粘着トラップを施設内に設置してタバココナジラミの早期発見に努める。
- 6) 発病した株は伝染源となる。直ちに抜き取りほ場外に持ち出して埋没処分するか、ビニール袋に入れて完全に枯れるまで密閉処理する。
- 7) 野良生えは重要な伝染源となるので、徹底除去する。
- 8) ほ場周辺やほ場内の雑草は、タバココナジラミの発生源となるので必ず除草する。また、施設内へ目的作物以外の植物を持ち込まない。
- 9) 栽培を終了した施設は、株が枯れるまで密閉処理を行い、施設内の保毒虫およびウイルスを死滅させ、施設外に出さない。



図1 発生ほ場の様子。



図2 黄化葉巻症状

※なお、本文はホームページ「<http://www.jpnn.ne.jp/kumamoto/>」上に掲載しています。

熊本県農業研究センター
生産環境研究所 病害虫研究室
担当：荒木、加賀山
TEL：096-248-6490
FAX：096-248-6493